

「ケン、ケーン。」

といったと思つたら、ニシンの束といつしよに消えていなくなつてしまつただど。

じいさまは、ほろよい気分もどごがに吹つ飛んで、しょんぼり家に帰つてきたど。

ばあさまが、戸口とぐちで待つてで、

「お帰かえなんしよ、何だつて遅おそがつたなし。」

と言うど、じいさま、帰り道のことを話したど。

「それは、難儀なんぎなことだつたなし。明日は赤飯せきはんでも炊たいでお稲荷いなりさま様に、あげんべし。」

と言つただど。

じいさまは、今度からもつきりなのひっかげねえで、早く帰つてくんべど思つただど。

注I・・・まずに酒をなみなみ注ついだもの